

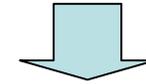


○上根・向山地域振興会が取り組んで水車を利用してお米を精米して販売を行っている活動と水車で搗くお米の供給元である棚田の保全活動について報告します。

○写真は、当振興会の中にある「潜龍峡ふれあいの里」の水車小屋の全景写真です。

「地域マップ」作りのワークショップ が上根・向山振興会活動の原点

上根・向山は素晴らしい地域
だという「自信」と「誇り」



「自信」は地域を「元気」にします



地域を歩きまわって、自分たちの住んでいる地域の歴史や文化を知り、地域の将来の夢を語ることによって「水車米の復活」・「本郷の棚田保全」に展開していった。

地域資源「水車米」の復活

観光用水車を改造し、本来の「精米用」の水車として再生したらというワークショップでの提言を受けて、杵装置と臼などを設置する改造を行った。



「潜龍峡(せんりゅうきょう)ふれあいの里」という地域内の公園に景観用として、設置されていた水車

水車の改修を行った当振興会員 二人のチームワークにより完成しました



大工の向井さんは、水車作りは初めての経験でしたが、車軸を丸く削る作業など難しい作業も長年の巧みな技術で、丁寧に仕上げてもらいました。



水車の改修のための設計・監理は地域づくり部長の賀志古さんが行いました。設計に当たっては、子どもの頃に地域にあった水車を思い出しながら、現地に合う設計をしてもらいました。

地域の協力により 水車は完成しました



車軸の取付け作業



水路に堆積した土砂の除去



防腐剤塗り作業

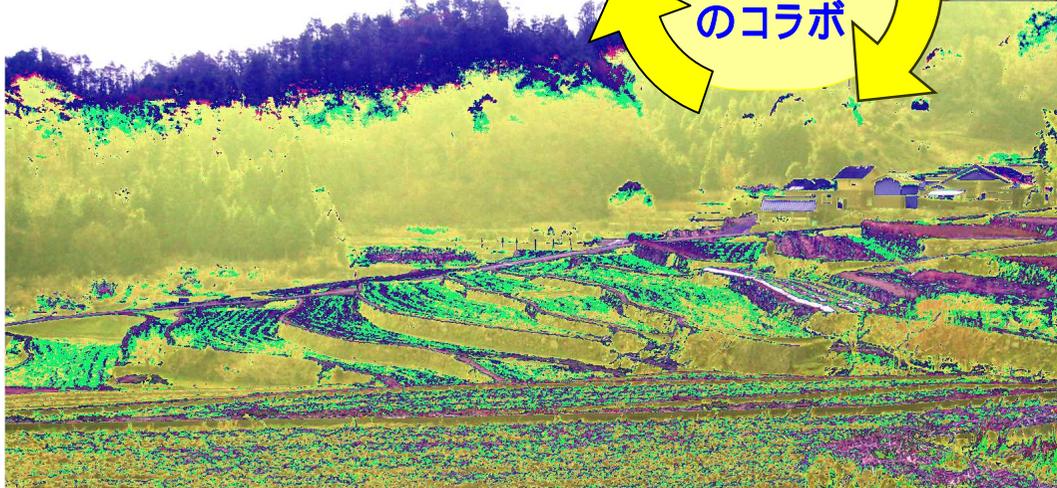


改修により2個の石臼を設置

「棚田」と「水車」の「棚田水車米」を販売



地域資源
棚田と水車
のコラボ



■ 昔ながらに「水車」でゆっくりと精米すると、機械精米と比べ、熱が発生しないので“米”本来の旨みが残ります。

棚田農家と地域振興会とで、棚田を守る仕組みをつくる。

いつまでも守っていききたい 棚田の風景



「棚田」を守ることは「地域」を守ること

昨年から当振興会が休耕田を借り受け



休耕田(11a)
3枚の棚田を借り受けました



棚田での農作業は手間がかかります

米の生産から販売まで

水車米の直売所を昨年5月オープン



水車米直売所(レストラン)では、店舗を改修し飲食の営業許可を取りました。



水車米直売所



営業日:毎週日曜日
午前11時~午後4時
水車米種類:3kg・5kg・10kg



ちょっと休憩していきませんか



入口看板・誘導看板を設置

水車米販売促進の取り組み

イズミ吉田店での販売



米販売コーナー
で棚田水車米を
販売しています

可部町「可笑屋」での販売



「可笑屋」は旧道
折り目北側100
mにある築200
年の古民家を改
装した喫茶店

ひろしま夢プラザでの販売



昨年の安芸たか
たフェアでの
販売

「銘菓神楽の里」にチラシを添付



地元久保製菓
本舗の製品に
水車米チラシ
を添付

うま味が違う「水車米」



「水車米」

- ・精米機は圧力をかけて高速で摩擦するので高温になる。急激に高温になると米のうま味であるでんぷんが熱に弱く変質する。
- ・一方の水車米は、時間をかけて杵と臼で精米するので温度が上がらず、でんぷんがほとんど変質しない。



「棚田水車米」

- ・本郷地区の棚田は、石積みの棚田のため日中は石積みからの放射熱により温度が高くなるが、夜間は標高300mの高冷地のため、気温が低くなる。気温の寒暖差がおいしい米を育てる。
- ・堂床山からの清らかで豊富な湧き水で栽培するため、おいしいお米が収穫できる。

今後の取り組み

【生産・販売・交流】の促進

水車の里づくり事業

二連水車(増設)による生産性の向上
公園内へ花・木の植栽

棚田保全事業

棚田農家と振興会とで棚田を守る仕
組みづくり

都市住民との交流事業

棚田の農作業を通じた交流
収穫祭等のイベントを開催

「棚田水車米」のブランド化

- ・収益事業の展開による財政
的な安定の仕組み
- ・「相互扶助」による地域を守
る振興会への組織づくり
- ・交流をキーワードにした「手
作り棚田水車米」の販売